

熊本地震 現地レポート

所 属 建設部 住宅営繕課
氏 名 前田 将宏

平成 28 年 4 月 16 日に本震が発生した熊本地震に伴う被災建築物応急危険度判定について、4 月 20 日付け国土交通省の第 3 次広域支援要請に基づき、静岡県第 4 次派遣団の一員として、熊本県内における被災建築物の応急危険度判定を行ったので次の通り報告します。

記

- 1 期間 平成 28 年 4 月 26 日（火）から 4 月 28 日（木）の 3 日間
（判定活動実施期間前後の 4/25 及び 4/29 は移動日）
- 2 場所 4 月 26 日：熊本県下益城郡美里町中郡地区
4 月 27 日：熊本県上益城郡益城町広崎地区
4 月 28 日：熊本県上益城郡益城町島田地区
- 3 人員 静岡県 2 名、静岡市 4 名、その他浜松市、沼津市、富士市、富士宮市、
焼津市各 2 名（合計 16 名）

4 活動内容

(1) 判定支援について

静岡県派遣団については、本震（4/16 未明）発生直後の 4/17 から判定活動を行っている。これは国土交通省から中部ブロックへの広域支援要請に先立って行われており、静岡県と災害協定を結んでいる熊本県への支援として直接行われた。

その後、中部ブロックへの広域支援要請が国土交通省から正式に出されたことを受けて、県の第 2 次派遣（広域第 1 次）、第 3 次派遣（広域第 2 次）として、県職員及び静岡市職員によって判定活動が行われた。

続く県の第 4 次派遣（広域第 3 次）については、県内の特定行政庁職員も加わることとなり、県職員 2 名、静岡市 4 名のほか、浜松市・沼津市・富士市・富士宮市・焼津市からそれぞれ 2 名が判定活動に参加することとなった。

現地での判定活動については、災害対策本部に属する判定コーディネーター（職員）

の指示に基づき日毎に判定地域が指定された。

支援を行う自治体については、中部ブロック以東の自治体が熊本市へ、近畿以西の自治体が熊本県へ支援に入っていた。ただし、静岡県派遣団だけは、第1次から引き続いて熊本県の災害対策本部への支援を続けたため、判定活動を行う場所としては、県が管轄する町や村が主となった。

周辺の町や村の判定実施についても、まずは熊本市内にある実施本部へ毎朝参集し、判定コーディネーターの指示を受けてから、周辺の町や村へ移動して作業を行うという流れであり、地域によっては熊本市内から車で1時間以上掛かる場所も含まれていた。

我々の判定活動場所は、初日(4/26)が熊本市の南東に位置し車で1時間程度の美里町、2日目と3日目は熊本市に隣接し最大震度7を2回記録した益城町であった。

(2) 判定実施本部について

県の実施本部は、熊本市東区にある県立盲学校が使用されていた。グラウンドを判定士用の駐車場として開放し、地震による被害のなかった体育館を本部として活用していた。第4次の初日である4/26時点で本震発生から10日が経過していたこともあり、九州地方や近畿地方の自治体職員をはじめとして、地元の民間判定士も多数参加し、体育館内には多くの判定士が控えていた。また、実施本部の運営も比較的落ち着いており、必要な道具などの整理もなされていて、判定士が円滑に判定活動に向かえる環境が整っていた。

(3) 判定活動について

判定活動初日の美里町は、家屋倒壊などの建物被害はほとんど見られず、美里町役場も非常に落ち着いていた。実際に建物を調査してみると、屋根瓦のずれや落下が生じたために、ブルーシートを被せる等して雨対策を施している建物が多くみられたが、建物の損傷等は総じて軽微であった。

判定2日目及び3日目は、建物被害が多数出た益城町での判定活動であったが、このようなエリアにあっても築浅で軽量屋根の住宅は無傷の状態に残っており、耐震の重要性を再認識できた(熊本県熊本市や益城町では地震地域係数が $Z=0.9$ である一方、静岡県では $Z_s=1.2$ を多くの建物で採用しているため、新築時点で耐震性能に違いがある)。

住民の話しによると、4/14の地震では倒壊家屋などはあまり出ていなかったが、4/16の本震で多くの家屋が倒壊してしまったとの事であった。

また、1度目の地震(前震)の後、未だ損傷が残る家に自己判断で戻ってしまったために、

本震によって被害を受けた方も多かったとの事で、応急判定を迅速に行う必要性を感じた。

(4) 判定結果について

応急危険度判定は、余震による二次被害を防止することを目的としているため、「危険」として赤い紙を貼った件数が、全て倒壊の恐れがある件数となるわけではないが、今回の判定活動では、約 4 割の建物が「危険」と判定された。また、頭上からの落下物に注意を要するなどの理由で「要注意」との判定となった建物も約 4 割であった。

一方で、約 2 割の建物で「調査済」の判定となったが、震度 7 クラスの地震を 2 度も立て続けに受けたにも拘らず軽微な損傷で済んでいることには驚くとともに、現在の耐震技術の高さを改めて確認できた。

3 日間の判定結果は、以下の通り。

| 沼津市分 | 合計 | 判定結果 | | | 備考 |
|---------|----|---------|---------|--------|-------|
| | | 調査済 (緑) | 要注意 (黄) | 危険 (赤) | |
| 4/26(火) | 15 | 1 | 9 | 5 | 美里町中郡 |
| 4/27(水) | 8 | 5 | 2 | 1 | 益城町広崎 |
| 4/28(木) | 21 | 3 | 8 | 10 | 益城町島田 |
| 総計 | 44 | 9 | 19 | 16 | |